

中学生の「税についての作文」優秀作品
『十日町市租税教育推進協議会 十日町市長賞』

税が繋ぐ社会の和

十日町市立 下条中学校 3年
村 山 日 真 莉

「増税するな」「税金を下げろ」SNS 上ではよくこんな意見を目にする。『税金』という言葉から、第一にマイナスなイメージを連想する人も多いだろう。しかし、本当にそう断言できるのだろうか。

先日、学校で税についての授業を受けた。そこで先生は、「税金は日本社会に住んでいることで取られる『会費のようなもの』」と話された。というのも、税金とは、必要なお金を皆で出し合って負担することで互いの生活を支えることだからだ。例えば、病気やけがで病院に行ったときの医療費や、高齢の方々のための介護や年金、親が子育てしやすい環境づくりなど、公共施設や公共サービスを提供するために使われている。また、最も私たち中学生に身近であるのが、教育だ。こうして毎日学校に通い、学習し、新しい学びを得ていくことも、税金によって成り立っている。学費として、一人あたり約千四百四十万三千円もの税金がかかっていると聞いて、私は驚き、何より税金に深く感謝した。そして、税金に対するマイナスなイメージの多さに疑問を持った。

私たちが大人になれば、今身近に感じる消費税の他に、所得税や法人税、その他諸々の多くの税を納めることになる。そうすると税金を納めることを負担に思う人も多くなるだろう。だけど、それは私たちにこうして教育を受けさせてくれている社会の先輩方への恩返しだと思う。私たちは、将来に投資してもらったぶん、社会の先輩方が年を重ねられた時、安心して生活ができるよう年金ともなる税金を納めるのだ。

授業の際先生が話された、『社会の会費』とはまさにこのことで、税金を納めることは社会を繋げる協力の和だと思う。よく、SNS などで増税に対する批判を見かけるが、実は日本の税金は他の先進国と比べても低い方なのだ。より負担の多い国は沢山存在する。日本は賃金が安いことが課題だが、これらの解決に向けて様々なことが進んでいる。『増税する』ことは、もしかしたら必要なことなのかもしれない。

私たちは、あと数年もすれば成人を迎え、社会人となり、これからの日本を担っていく重要な年代となる。税について、正しい知識を持ち、納めることに誇りを持つことが、今の私たちにできる社会貢献だと感じている。